

海外スポーツマネジメント研修 報告

本研修の目的と概要

- 本研修ではドイツ、ベルギー、オランダ3カ国を訪れ、多様な経験を通じ、スポーツビジネスへやスポーツ文化への知見を深めることを目的としている

| | |
|--------|--|
| 授業名 | 海外スポーツマネジメント研修 専門科目 選択/2単位（経済学科・経営学科・観光経営学科） |
| 日時 | 2026年2月10日 出発 2026年2月20日 帰国 |
| 訪問都市 | ドイツ：ドルトムント・デュイスブルク・デュッセルドルフ ベルギー：シント＝トロイデン オランダ：マーストリヒト |
| 研修目的 | 世界有数のスポーツ文化を誇るヨーロッパにて、トップスポーツとグラスルーツスポーツ両面から学び、日本のスポーツビジネス・文化の“現在地“を理解する |
| 研修参加人数 | • 2年生15名/3年生6名 |

全体スケジュール

- 8泊10日の行程で3カ国、5団体からレクチャーをいただいた

| | | コンテンツ |
|-------|---|---|
| 2月10日 | 火 | 成田空港 出発 21:55 |
| 2月11日 | 水 | PM：デュッセルドルフ到着・デュイスブルクSports schule移動 |
| 2月12日 | 木 | AM：デュイスブルクスポーツ協会レクチャー PM：BVB育成施設見学/BVBレクチャー |
| 2月13日 | 金 | AM：BVBレクチャー PM：スタジアムツアー ドルトムントVSマインツ戦観戦 |
| 2月14日 | 土 | AM：フリータイム PM：ロートヴァイスエッセンHG（オプション） |
| 2月15日 | 日 | 終日：フィールドワーク |
| 2月16日 | 月 | AM：Nordstat LIGAレクチャー PM：フリータイム |
| 2月17日 | 火 | AM：MVVマーストリヒト レクチャー&スタジアムツアー（オランダ） PM：シント＝トロイデンVV レクチャー&スタジアムツアー（ベルギー） |
| 2月18日 | 水 | 終日：フィールドワーク |
| 2月19日 | 木 | AM：フリータイム PM：出国 |
| 2月20日 | 金 | 帰国 |

事前研修

- ドイツという国、ボルシア・ドルトムント（以下、BVB）というクラブの理解を深めたうえで、参加者が学びたい内容を具体化するために事前研修を実施した

| | |
|------------------|---|
| 11月6日 | オリエンテーション 自己紹介、顔合わせ |
| 11月6日 | ボルシアドルトムントとは 今回のメインコンテンツであるボルシアドルトムントというクラブへの理解を深める |
| 11月17日 18:15~ | ドイツの社会と文化 外国語学部の授業を聴講し、ドイツという国への理解を深める |
| 12月4日 18:15~ | レクチャーテーマプレゼンテーション ボルシアドルトムントに依頼するレクチャーテーマを選定する |
| 1月8日 18:15~ | 出発前相談会 昨年研修に参加した先輩や旅行会社から、注意事項の説明や個別相談を実施 |
| 1月29日 18:15~ | グループ研究プランの設定 フィールドワークデーの行動計画を発表 |

- 教員および、参加学生がレクチャーテーマを設定し計6コマの講義を実施
- クラブ経営の核となるブランド戦略や、ビジネスの最前線、クラブの歴史など、世界最高峰のクラブが展開するスポーツビジネスを学べる貴重な機会となった

1

ブランド戦略

- 2年前に行ったリブランディングおよびBVBのブランドマネジメントを学ぶ

2

サステナビリティ

- BVBの環境・社会・ガバナンスに関する戦略 / 事例を学ぶ

3

育成とビジネス

- BVBをピッチでもビジネスでも支える若手選手の育成とそれらを支える指導体制について学ぶ

4

マーケティング

- 世界中で展開するソーシャルメディアの戦略およびマネジメント体制について学ぶ

5

クラブの歴史と50+1ルール

- 倒産しかけた歴史から再生し、ファンと共に歩むBVBの経営スタイルについて学ぶ

6

e sports (学生自ら設定)

- 5年前から発足したプロジェクトの狙いと今後の展望について学ぶ

BVBLekチャー

- レクチャーテーマに沿って、BVB現役スタッフの活きた講義と試合開始前の記者会見場という特別な空間もあいて、この研修でしか学べない内容を吸収できた



BVB育成施設訪問

- トレーニング施設を見学し、実際に選手が使うトレーニングマシンを体感。スタンド付きのグラウンドやロッカールームでも様々なレクチャーを受け、BVBの価値の源泉を体感した。



BVB試合観戦

- 近年スタジアムビジネスにおいて重要性が高まっているホスピタリティラウンジ。そこでの試合観戦は、普段のスポーツ観戦では味わうことのできない特別な時間となった。この体験は、今後スポーツビジネスを学ぶうえで貴重な知見となると考えられる。



ロートヴァイスエッセン試合観戦

- ドイツ3部チームの試合を観戦。当日は1万人をこえる観客の熱狂を感じ、ドイツのスポーツ文化を体感する機会となった。世界トップレベルと地域レベルの試合を観戦することは貴重な経験となった



Duisburg Stadt sport bandレクチャー

- 前会長のウーベ氏よりレクチャー。デュイスブルク市のソフト事業を担う同協会より、スポーツ政策の現状やプロスポーツとグラスルーツスポーツの役割分担、人種統合に対するアクションなどを学び、ドイツにおけるスポーツの位置づけを学ぶことができた



Nord Stadt Ligaレクチャー

- BVBの紹介によって代表のデミロビッチ氏よりレクチャーいただく。ボスニア難民という背景を持つ同氏から、BVBと協力した貧困エリアでのサッカー大会プロジェクトに関するレクチャーを受講。恵まれない環境で生まれた子供たちに対するプロジェクトを学ぶことで、スポーツのもつチカラについて考えることができた



MVV マーストリヒトレクチャー

- 日本資本が経営参画した同クラブのCEO飯塚氏より、ヨーロッパのスポーツビジネスおよび日本発のプロジェクトのレクチャー。日本人が世界のスポーツビジネス現場で戦うためのヒントを得た
- 1万人収容のコンパクトなスタジアムを視察。人工芝のピッチや様々なホスピタリティスペース、ロッカールームまで見学させていただき、ヨーロッパの豊かなスポーツ文化を感じた



シント＝トロイデンVVレクチャー

- ホテルやショッピングエリアを備える複合型スタジアムにて、日本資本のクラブがいかにして現地に根付いてきたのか、福島氏、現地スタッフバート氏からレクチャーをいただいた。ピッチ内・外での取り組みはスポーツビジネスのみならず、多国籍にビジネスを展開する企業にとっても学べる点があると感じた。



学生によるフィールドワーク

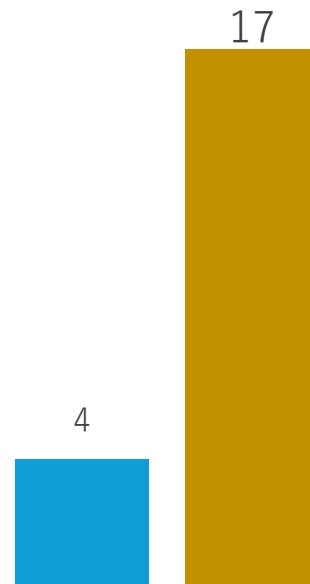
- それぞれの興味関心に沿って、グループでフィールドワークを実施。現地ファンへのアンケートや施設訪問など、自ら計画を立てる力、海外でも臆することなく飛び込む行動力が身についた



学生アンケート

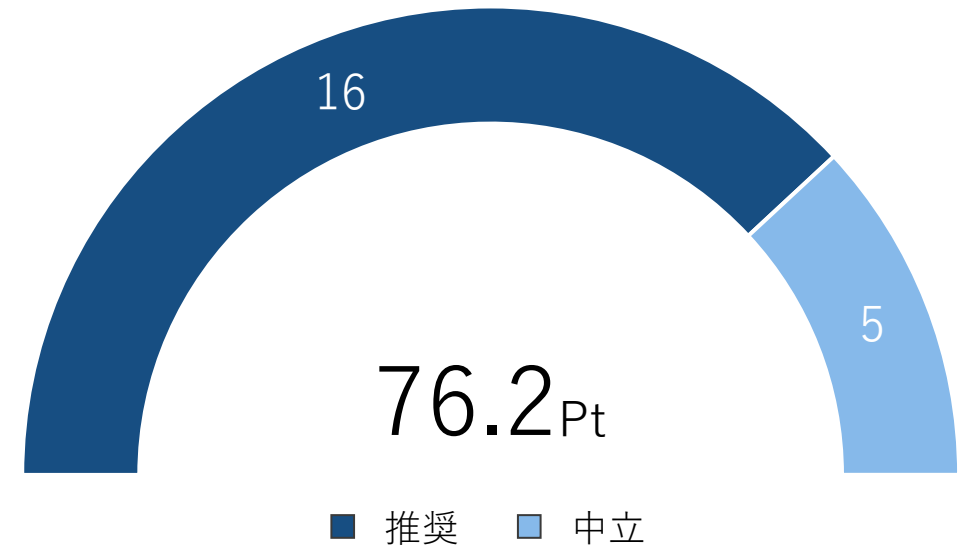
- 高い満足度および推奨意向であった

研修への満足度



■ とても不満 ■ 不満 ■ どちらともいえない ■ 満足 ■ とても満足

NPSスコア



NPSスコアとは：「他者にどのくらいすすめたいか」を10段階で調査。10~9を推奨 8~7を中立、それ以下を批判として計算。50を超えると優秀とされる

学生アンケート

- レクチャーはもちろんのこと、現地に行くことでしか体感できない経験は学生にとって財産になった。また、海外や語学学習への興味向上、将来へのヒントを得たなど多面的なプラス効果が得られたと思料

このプログラムに参加したおかげで**海外へのイメージがガラッと変わりました**。これからはもっと海外に行ってみたいと思うようになり、また**英語を日常会話レベルまでに話せるようにしたい**と思いました。

研修は、**これまで学んだスポーツ経営やクラブ運営の知識を、実際の現場を生で感じ、すごさと貴重さを経験しました**。特にドルトムントでは、どの分野でもブランド力や真実の愛を共通して取り組んでいる様子やユース育成のこだわり、地元地域との関わり方などを感じられることができました。

その他様々なクラブを、訪問しスタジアム運営やスタジアムの様子、ファンエンゲージメントなど、日本との違いを肌で嬉しく感じました。と**同時に言語の違いで度々もどかしさも感じつつ、貴重な経験**だと思っています。

色んなカテゴリーの試合を見ることで違いや共通した熱を感じることもできた。**複数人行動を徹底することで全員が安全に研修を終えることができた**と感じた。

自由行動時間が多く、学びたいことで班分けされていたので、**学びたい内容を自由行動の時間でもたくさん学べた**のでよかった。**ドイツだけでなくベルギー、オランダと他の国に行くことで、日本との比較だけでなくヨーロッパ内での比較もすることができたので、良かった**です。また、**日本人経営者や、前線で働く日本人を見てより明確なビジョンが見えた**気がしました。

とても有意義な10日間でした。

ヨーロッパの土地スポーツ文化国民性に触れられたコトで自分の知識がより深まった。

研修でしか味わえない体験や経験をすることができ、いろんな刺激をもらうことができました

今回の研修を通して、ドイツ国内全体のサッカーへの情熱やその文化に日本との違いを強く感じた。サッカーを好きな人がこんなにも多くいることに感動したし**サッカーというスポーツの可能性の大きさを身をもって経験**することができた。ドイツのようなサッカー文化を日本で作ることは難しいかもしれないが、多くの魅力があり本当に沢山の人が愛されているという事実があるという事は変わらないのでこの魅力を日本でも広めていきたいと思った。

スポーツ経営の知識だけでなく、人生経験としてただの旅行では経験できないような体験をすることができ、**人としても成長**することができたと思う。BVBの講義や試合観戦ではサポーターの熱量や、クラブとしてのブランド力を感じ、日本にもこんなクラブがあればという想いが強くなった。また、BVB以外のクラブの試合も観戦し、ドイツには絶対的なクラブが存在する訳ではなく、地域クラブを地域住民が熱狂的に応援する文化があることを感じ、2部でも3部でも変わらない熱量を肌で感じた。最初は女子3人という環境下で不安も大きかったが、新しいコミュニティができ、貴重な体験をすることもできたため、行ってよかったと思える研修となった。

普段日本で生活している中では、絶対に経験出来ないことの連続でとても充実した時間になりました。元々プログラムに組み込まれている各所での講義やスタジアムツアーでは世界規模の運営などを知ることができ、グループワークで自分たちで目的を元に行動計画を立てて実際に行動することでより有意義な時間になったと思います。地域やチームごとにまた違った学びを得ることが出来たので、これをら今後に活かしていきたいと思います。

手取り足取り何も知らない環境でフィールドワークやレクチャーだったり、**自分で考えて行動や質問をするという成長させてもらえる環境に自分を置くことのできるプログラム**でとてもいい経験だと感じました。

BVBだけでなく様々なカテゴリーの学びもあったので、色々な発見ができ、個人的に素晴らしい体験になった。**自分の中での世界が広がった**と思います！

日本国内では到底味わえないヨーロッパ独特の雰囲気、空間を体験することができて自分にとってとても良いタイミングで良い刺激を受けることができた。

本研修プログラムは、非常に身のあるものになったと感じている。日本でも、学内、学外でスポーツビジネスを学ぶ私にとって、ドイツでのスポーツ文化は興味深い点が沢山あった。その中でも**地域の人、ファンの為のスポーツ、スポーツチームという文化にすごく引かれた**。これを私が学内で活動しているスポーツサポーターの会に置き換え、どのようにしたら学生が自らの学校スポーツを応援する文化を醸成できるのかということを考えていきたい。

10日間の充実度が非常に高く素直に行ってよかったと思えた。フィールドワークでスタジアムやファンショップを回るだけでなく、BVBやエッセンなどプログラムの中でもスタジアムツアーができたことで**ブンデス間や他国のスタジアム比較**ができて勉強になった。ブレーメンに行く時の特急含めた電車のチケットは事前に調べて取っておけたらよかったと感じた。

本研修のまとめ

本研修は、ドイツ・ベルギー・オランダの3カ国を訪れ、ヨーロッパのスポーツビジネスを「現場」で学ぶ8泊10日の特別プログラムです。事前研修でクラブや社会背景を学んだうえで現地に向かい、ボルシア・ドルトムントの現役スタッフから、ブランド戦略、サステナビリティ、育成、マーケティング、50+1ルールなどについて直接講義を受けました。世界最高峰クラブの舞台裏に触れられる経験は、この研修ならではの魅力です。

さらに、地域スポーツを支える団体や、社会課題に取り組むプロジェクト、日本人が経営に関わるクラブなど、多様な現場を訪問しました。トップクラブだけでなく、地域と密着したクラブや多国籍経営の実例を見ることで、スポーツの可能性を多角的に理解することができます。

学生自身が計画・実行するフィールドワークでは、現地での調査などに挑戦し、自ら考え行動する力を試しました。言語や文化の違いに戸惑いながらも一歩踏み出す経験は、大きな自信につながります。

アンケートでは高い満足度と推奨意向が示され、学習意欲や将来への意識が高まったという声が多く寄せられました。

本研修は、単なる海外視察ではなく、自分の視野を広げ、将来の選択肢を具体化する機会です。

スポーツビジネスを本気で学びたい人にとって、大きな成長のきっかけとなるプログラムだといえます。

本レポートをお読みいただき、研修にご興味を持っていただいた方は、ぜひ来年以降の海外スポーツマネジメント研修への参加をご検討いただければ幸いです。